



令和5年1月31日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

2月号

新年度に向けて

校長 河崎 晃二

早くも、令和5年が始まってから1か月が経とうとしています。朝晩の冷え込みから考えると、まだまだ寒い日が続きそうです。また、新型コロナウイルスの感染症に加え、インフルエンザ流行の心配もあり、予断を許さない状況です。気の抜けない日が続きますが、開四小の子たちの学びを止めずにしっかりと育めるよう精一杯取り組んでまいります。

*

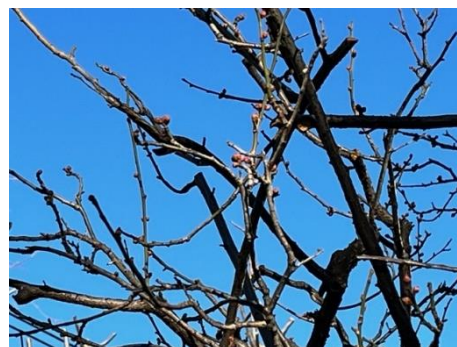
さて、2月は暦の上では立春を迎え、春が始まる月です。しかし、1年の中で最も寒い時期でもあります。そんな厳しい寒さに耐え、いち早く花を咲かせ、春の訪れを教えてくれるのが、梅の花です。梅の木には、「好文木（こうぶんぼく）」との別名があります。その昔、晋（中国）の皇帝である武帝が学問に親しむと花が開き、怠ると開かなかったという故事から、梅の木が学問を好む木＝好文木と呼ばれるようになったと言われています。また、日本で学問の神様とされる、菅原道真が好んだのが梅の木（花）というのは有名な話です。

道真が残した

「東風（こち）吹かば 匂ひをおこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな」

との句にも梅の花を愛していたことがうかがわれます。そのことから、全国の天満宮（菅原道真を祭神とする神社）には、必ず梅の木が植えられています。開進第四小学校にも正門近くのひょうたん池のところに、梅の木があるのをご存知でしょうか。冬の寒さの中、赤い小さなつぼみをたくさん見つけることができました。ゆっくりではありますが、春が近付いているのを感じます。

2月は、3学期の中でもその学年で学習する内容が身に付いたかを確認する、まとめの時期です。冬の寒さに耐え、一生懸命学習に取り組み、次の学年への準備をする子供たちの姿は、まるで梅の木のようにです。冬が過ぎ、あたたかな春に鮮やかな花をいっぱい咲かせることができるよう、一日一日を大切に過ごしていきます。



ひょうたん池の梅の木